

生活単元学習指導案

指導者 松下 友紀

- 1 日 時 令和 6 年 11 月 16 日（土） 第 2 校時（10：05～10：55）
- 2 学年・組 中学校第 2 学年 3 組 計 5 名（男子 1 名，女子 4 名）
- 3 場 所 中学校第 2 年 3 組教室
- 4 単 元 名 東雲交流発表会に向けて
- 5 単元について

本学級は、男子 1 名，女子 4 名が在籍する知的障害特別支援学級である。生徒は、それぞれ異なる小学校の特別支援学級から本校に進学してきた。同一学年，複数名での学習は未経験の生徒が多いため，友達との距離が近かったり，思ったことをそのまま言ってしまうたりしてトラブルになることが多くあった。1 年半，同じ学級で過ごす中で，一緒にレクリエーションを楽しんだり，教師の支援により話し合いを進め意見を決めるようになってきたが，きつい言葉を使ってしまうたり，自分の考えをなかなか言葉にできなかったりする場面も見られる。

他者とのやりとり以外については，何事にも意欲的に活動に取り組める生徒もいれば，苦手な活動，幼稚だと思える活動には意欲が下がる生徒もいる。指示理解の速さ，手指の巧緻性，集中力の持続，作業の速さなどについても実態は多様である。話をすることは苦手であるが，細かな作業が得意である生徒，その逆に細かな作業は苦手であるが，他者に話しかけることは得意な生徒がいる。また，丁寧さにこだわるあまり，作業スピードがゆっくりになってしまう生徒もいる。それぞれ得意，不得意があるが，互いに他者を認め合い，得意なことを生かし，苦手なことは助け合える学級にしていきたいと考えている。

本単元は，東雲交流発表会での展示に向けてクラスで作品を制作する。この単元を通して，見る人を意識した作品づくりや他者と関わりながら一つのものを作り上げる楽しさを感じ取れるようにしたい。昨年度，本学級では，東雲交流発表会に向けて，学級全体で季節の壁画の制作（紅葉）に取り組んだ。教師が提案したものに従って，一人一人が落ち葉を作り，それを貼り合わせて作品に仕上げていく活動では，他者に話しかけたり，笑いかけたりする様子が見られた。今年度は，何をつくりたいのかを生徒が考えることからスタートする。全員で季節の制作を計画し活動する中で，必要なことを考え，みんなで準備する姿や，適切な言葉を使ったり，ペアの生徒の作業を意識したりして，他者と関わりながら活動する姿を期待する。

指導にあたっては，まず東雲交流発表会に来る人たちに季節感を感じてもらうためには，どのようなものが会場にあるとよいかを考えることで，作品づくりへの意欲を高めたい。自分が楽しむだけでなく，会場の人たちが楽しむことも意識して作品を制作できるようにしたい。パーツの試作品づくりを通して，自分が得意な作業，苦手だから手伝ってもらいたい作業などを把握できるようにする。どの生徒と協力するかをわかりやすくするために，2 人または 3 人での活動を設定する。手伝うときの声のかけ方，助けてもらう時の言葉のかけ方などを指導し，仲間と活動するときに活用できるように促す。

6 単元の目標

- （1） 仲間と作業するときの適切な言葉遣いや行動を知り，活動の中で使うことができる。
- （2） 学級の仲間と制作する作品を構想したり，必要な材料を考えたりすることができる。

自分でできそうなことと手伝いが必要なことを判断し，仲間を助けたり，仲間に助けを求めたり

することができる。

(3) 見る人を意識して、より良い作品を目指して、仲間と協力して活動することがしようとする。

【主体的に学習に取り組む態度】

7 「教科等本来の魅力に迫るための教師の資質能力」との関連

基準	具体的な生徒の姿
IV	自分にできること、自分には難しいことが分かり、適切な言葉を使って助けを求めることができる。自分ができていることを生かして、積極的に仲間と関わるができる。
III	活動がよりよく進むように、仲間に適切な言葉をかけたり、作業を手伝ったりして、作品づくりに取り組むことができる。
II	自分が苦手なことに気づき、仲間に助けを求めることができる。
I	難しい作業であるが、自分ひとりで解決しようとしている。 同じグループの仲間の作業を意識することは難しいが、自分の担当する作業はできている
手立て【関連する教師の資質能力】	
○話しかけるときの言葉や、手伝ってほしい時の言葉など、話型の例を指導する。 ○今年意識して頑張りたいことを考えるために、昨年度の東雲交流発表会の様子や作品を写真で振り返る。【授業構想力】 ○作品づくりのイメージをもてるように、写真や具体物を示す。 ○自分ができることと、手伝ってもらいたいことを考えるために、作品の手本と自分が作ったものを比較するように促す。【授業実践力】 ○適切な言葉づかいや行動を学級内で共有するために、できたことを具体的に評価する。 ○生徒の作業能力に合わせて見本を提示する。 ○生徒の得意なこと、苦手なことを見取り、グループ活動のメンバーを調整する。 【授業分析・評価力】	

※上記のものは、本単元のもので、当日の授業については別途資料で配付する。

8 指導計画（全10時間）

次	時数	学習内容
1	1	東雲交流発表会について知ろう（3組合同）
2	2～3	東雲交流発表会に向けてクラスで作るものを決めよう
3	4～5	試作してみよう
4	6～9	みんなで作品を仕上げよう（本時6/10）
5	10	東雲交流発表会を振り返ろう

9 本時の目標

○ グループの仲間を意識して、声をかけたり手伝ったりしながら作品づくりに取り組むことができる。

【知識・技能】

○ できることと苦手なことを考え、ペアの仲間に助けを求めることができる。

【思考力・判断力・表現力】

生徒	実態	目標	目標達成のための支援	評価規準
A	・細かな作業が得意である。 ・周りをよく見ており、自ら気づいて学級の仕事をしている。 ・活動内容によって意欲に差が見られる。 ・イラッとすると荒っぽい言葉遣いになる。	適切な言葉遣いを意識して仲間に声をかけたり、「代わりにしようか？」と言添えて手伝ったりすることができる。	・自分から気づいて動いている場面、細かな作業を頑張っている場面を肯定的に評価する。 ・作品づくりの活動に入る前に、言葉遣いのことを確認し、意識できるようにする。	適切な言葉遣いや行動を意識して活動している。
B	・細かい作業が得意で、動画をみながら一人で折り紙ができる。 ・絵を描くことが好きである。 ・他の生徒を手伝うように指示を出すと、他の生徒の進捗状況を意識している様子が見られ、手伝うこともできる。	グループの仲間と声を掛け合いながら作業することができる。	・得意なことを肯定的に評価し、それをグループ活動で生かせるように言葉かけをする。	グループの仲間の進捗状況を意識し、声を掛けたり、助けたりして活動している。
C	・細かな作業は苦手な様子であるが、諦めることなく取り組むことができる。 ・仲間を励ます言葉かけができる。 ・困っていることには自覚があるが、自ら助けを求めることは難しい。 ・他者との適切な距離感、声の大きさを調整することが難しい。	グループの仲間に「手伝って」と助けを求めたり、「これお願い」と依頼したりすることができる。	・意欲的に取り組んでいる場面を肯定的に評価する。 ・活動の前に難しいと思った時はどうすればよいかを確認する。 ・ワークシートを用いて、難しそうなこと、できそうなことを確認するように促す。	難しいと思ったときに、適切に援助を求めている。
D	・丁寧な作業ができるが、作業スピードはゆっくりである。 ・教師には分からないこと、難しいことを伝えることができる。	・目標個数を決めて、時間内に作り終えることができる。 - ペアの仲間に「手伝って」と	・友達を助けることができる場面を肯定的に評価する。 ・ていねいさだけでなくスピードも意識できるように今日の目標個	- 作業スピードを意識しながら活動に取り組んでいる。 - 難しいと思ったときに、適切に援助を求めている。

	・考えたらできるかもしれないという思いがあり、助けを求めるまでに時間がかかることがある。 ・仲間を応援したり、前向きな発言をしたりすることができる。	助けを求めたり、「これお願い」と依頼したりすることができる。	数を提示し、見通しをもてるようにする。 ・援助要請を出す前にペアの仲間から手伝ってもらった場合は、次困った時に自分から伝えられるように言葉かけする。	
E	・自分から積極的に話す場面は少ない。 ・作業スピードは早く、細かな作業も得意である。 ・指示理解には難しさが見られるが、周りを見て何をすればいいかが分かる。手順を間違えている生徒に知らせることができる。	ペアの生徒が困っていたり、間違えていたりするときに、「ちょっといい？」と一言添えて手伝うことができる。	・手順が違っていることに気づいて、仲間に知らせることができていることを肯定的に評価する。 ・作品づくりの活動に入る前に、話しかけるときに使うと良い一言を確認し、意識できるようにする。	自分が得意なことを生かして、他者に関わろうとしている。

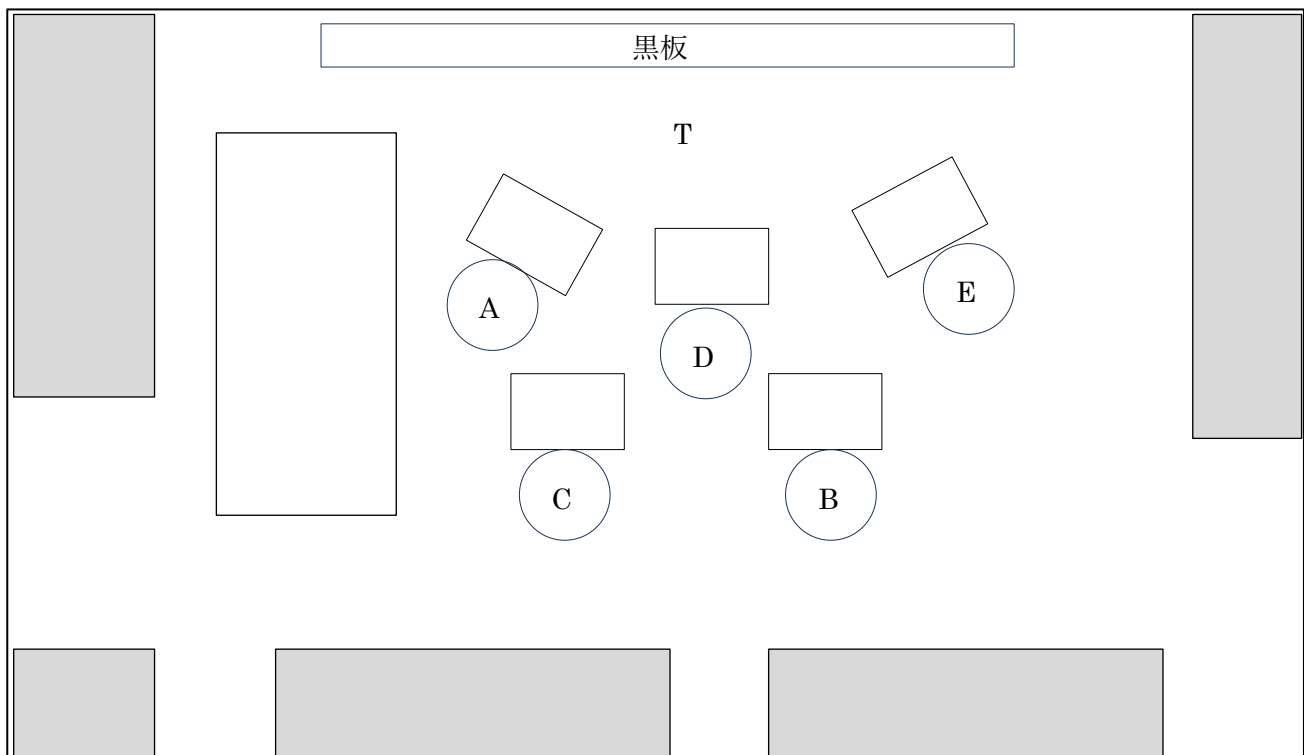
10 学習の展開

学習活動と内容	指導上の留意点（◆評価）
導入（10分） 1. 作品づくりの目的と前時までの学習を振り返る。 2. 本時の目標を確認する。	○ 前時までの学習成果物（ワークシート等）を提示する。
東雲交流発表会に向けて、協力して作品をつくろう	
展開（30分） 3. 準備 ・机の配置を変える。 ・必要な道具や材料を準備する。	○ 協力して作品づくりをするためのポイント（言葉遣いや、行動）を確認する。 ○ ワークシートを見て必要なものを考えられるようにする。 ◆ 互いに言葉をかけあって準備することができる。【知識・技能】

4. 作品づくり グループ① (A, C) グループ② (B, D, E) 5. 片付け 机の配置を元に戻し、道具や材料を所定の場所に片づける。 まとめ (10 分) 1. ワークシートに振り返りを記入する。 2. 振り返りを発表する。	◆ 難しいときに仲間に助けを求めることができる。【思考力・判断力・表現力】 ◆ 言葉遣いを意識して、他者に声をかけたり、助けたりすることができる。【思考力・判断力・表現力】 ◆ 互いに言葉をかけあって片付けすることができる。【知識・技能】 ○ 本時の学びを振り返り、言語化したり書いたりできるように十分な時間を確保する。
--	--

11 活動構成図

授業の始めと終わり



作品づくり

